

わがまち **Araijuku**
新井宿

自治会 自治会 自治会 自治会 自治会
東目 四丁目 三丁目 二丁目 一丁目
目 宿 宿 宿 宿 宿
新井 新井 新井 新井 新井
旧新 旧新 旧新 旧新 旧新
..... 共同編集

※ **町内総合防災訓練を実施**
阪神大震災から約半年の歳月が過ぎました。

新井宿六丁目町会では、防災設備を備えた新設公園「さくら通り三丁目公園」で、五月二十八日午前九時から、総合防災訓練を実施しました。百トンの水槽、防災備蓄倉庫、ポンプ格納庫等の公園設備を紹介した後、人命と財産の安全確保、初期消火、応急救護法のマスター等の訓練を行いました。

災害時に向けて、日頃の訓練の積み重ねが大切であるということ、皆で確認しました。

(新井宿六丁目町会)

新井宿地区自治会連合会総会の開催

五月三十日に開催された総会では、平成六年度の事業・決算・監査報告を承認し、平成七年度の予算を決定しました。

総会後に開催された懇親会では、退任会長及び自治会・町会役員永年在職者に対して西野大田区长から、退任副会長に対して篠原連合会長から、感謝状が贈呈されました。



※ **ラジオ体操会の開催**
山王三丁目青少年部の主催でラジオ体操の会が開かれます。

受賞者は次のとおりです。

- 〈退任会長〉
飯沼 登
- 〈退任副会長〉
永倉 康充 松井 勝男
猪良 清治
- 〈役員永年在職者〉
尾澤 時子 田中 和子
平林恵久子 須山 ひで
平林貴以子 岩井 保男

広い地域を水害から守る！

馬込幹線下水道工事

大田区役所本庁舎正面の駐輪場に、大きな建設機械が作動しています。道行く人々は、何が建つのか気がかりの様子。

これは、『馬込幹線』という下水道で、大きな雨水幹線の副立坑を作る工事なのです。

この大工事の発端は、昭和六十年七月十四日に、六十分間で九十一メートルの集中豪雨があり、その結果、床上浸水二百三十二件、床下浸水五千二百九十件の大きな被害が発生したことによりです。

(土木部管理課総合治水調べ) この集中豪雨は、水圧によって



区役所から見た工事現場 (写真提供：東京都下水道局)

大勢の方の参加をお祈りしています。
▽八月一日から十日迄 熊野神社境内 午前六時半

カじまん募集中

毎年体育の日に開催される、「区民スポーツまつり」の目玉競技「つな引き」に、新井宿地区からチーム「ヘラクレス」が出場します。

どなたでもご参加いただけますので、事務局までお問い合わせください。

- 白田すみ子 今村美和子
- 橋爪 一太 野口 宏
- 高橋 初子 山岸 稔
- 澤井 涼子 笹井 昭
- 竹澤 勇夫 熊川 敏正



(敬称略)

発行 編集 監修 事務局
わがまち大田新井宿地区推進委員会
「わがまち新井宿」編集委員会
新井宿地区自治会連合会
大田区新井宿特別出張所
三三七六一五三九一

▽阪神大震災は、私達にいろいろなと教訓を残してくれました。今災害対策の見直しが行われていますが、今回は防災に対してなにを望むのか、なにが心配なのか、地域の大勢のみなさんの声を聞く意味で「防災一言アンケート」を特集しました。

私達の生命と財産を守るために、防災についての知識を広めていただくきっかけとなればと思っております。

▽編集委員の染野春夫様、代鈴子様、木根静子様が交替されました。ご協力とご活躍感謝致します。

(南雲編集委員)

平成七年度の編集委員

- 委員長 田中愛二
- 副委員長 涌井慶治
- 委員 荒木秀樹
- 委員 高橋紗英子
- 委員 南雲博康
- 委員 佐藤ヒナ子
- 委員 阿部智子
- 委員 小松幸子
- 委員 前田律子

安全度向上を図る現在の工事となりました。

現在は、区役所前の交差点の下に、深さ三十メートル程の穴を掘る工事が行われています。この穴から掘進機を搬入し、白田坂に沿って南馬込児童公園まで、全長約千三百メートル、下水管の内径五・五メートルの幹線を布設することです。

区役所前の立坑工事を含む馬込幹線の工事は、平成十二年に竣工する予定です。

この大きな下水道が完成すれば、多量の雨水を貯留でき、地域を水害から守ることができるといわれています。

(涌井編集委員)

第5号の補足

前号で紹介しました、大田区立山王会館の記事に、左記の括弧書き部分を補足させていただきます。

☆一ページリード文一行目 この度大田区では、寄付を受けたマンション(土地は大田区が購入)を改修して……

阪神大震災！ その実態と教訓

前・新井宿特別出張所地域振興係長

田中 高雄

平成七年は、阪神大震災が始まった。一月一七日の早朝兵庫県南部を襲った大地震は、数千年に一度しか起きないといわれている活断層のずれで生じた直下型の地震で、活断層に沿って兵庫県南部は、観測史上始まって以来の震度7を記録し壊滅状態となった。私は、震災後四九日目の三月六日に現地を視察する機会を得たので、その状況を紹介します。五月二八日には、サハリン北で阪神大震災と同規模の大地震が発生しており、環太平洋地域は地震の活動期に入ったという説もある。大震災を教訓に地域の連帯を醸成し、いざという時の初動態勢を確立することが急務である事を感じた。家庭での備えも点検が必要だ。

明石から神戸・灘へ

交通網が寸断された中、JRR車内は、リュックサックを担いでいる人、大きな手提袋を持っている人たちで満員だ。被災地



車窓から見た倒壊状況

へ向かう人々は、どの顔も悲壮感が漂っている。

須磨を過ぎると、車窓の風景は一変して屋根に青いシートが掛けられている状態が目立って増えてきた。瓦が落ち、雨を凌ぐためのものだが、修理は、全く手付かずの状態だ。

電車は、新長田から神戸へと進行する。木造家屋が延々と倒壊している。ビルの傾きや崩壊も痛々しく目に焼き付く。このような状況が、車窓を額にして絵のように次から次へとめくれ

ていく。想像を超え、状況に膝がぐくぐく震えだし、胸が熱くなってきた。「カメラが哭いている」と言った写真家の言葉が、現実の視覚で感じられた。

灘 駅周辺

灘駅をおりと、埃が舞い立つ中を乗客が、代替バス乗場の方へ向かって黙々と歩く。ホームは、仮設の板張りで足元が悪い。駅舎の修復が、突貫工事で進められている。

代替バスの案内は、殆どの人がボランティアである。その一人は、「大阪から来ている。始発電車に間に合わせるために、朝暗いうちから歩いて来た」と話してくれた。みんなが、このような状態をなんとかしようとする懸命なのが伝わってくる。

国道一号线線に出て、住吉に向かって歩いた。焼け焦げた匂いが鼻を突く。国道の左側は、一面の焼け野原と化している。焼け残ったビルだけが、黒い姿をさらしている。所々に、花が置かれていた。涙腺がゆるんで、目の前が霞んでくるのを押さえることが出来なかった。



焼失した地域

いつになったら？

国道の上の高架道路は、取り壊され、瓦礫も撤去されているが、民家やビルの瓦礫撤去は、全く進んでいない。いつになったら復興が進むのだろうか。学校の校庭や公園は、罹災者のテントが林立し、ボランティアの人たちが活動している。サリン事件で世間の耳目は、阪神大震災から離れてしまっているが、これから大変なのだと思う。

これからは大変なのだと思う。ボランティアも減り、募金も忘れられているようだ。出来ることから、救援の手を差し伸べていきたいものだ。また、災害発生の際に、自分は何をすべきか、その手順と行動を普段から確認しておくことが大切ではないだろうか。

▽核家族化が進み、隣近所と縁になりがちだが、阪神大震災の様子をみて、町の団結と協力が、大きな復興の原点になっているのを感じた。日頃の近所づきあいも大切なことなのだと感じた。

▽災害後の情報は、どこに行けばどの様な事が解るのか具体的に知りたい。特に水・食料・外部との連絡方法。

(30代男性)
▽私はマンション住まいです。分譲でローンを支払っており、建替えるお金などありません。

(40代男性)
▽外出時、災害に遭った時、家族との連絡方法をどうしたらよいか、家族で話し合っています。

(40代女性)
▽事前の教育、訓練をしても、その成果は何分の一かである。後は心の持ち方による。自己責任の範囲を高めていかねばならない。

地震についてのアンケート

阪神・淡路大震災をきっかけに、アンケートをしました。

「世の中に、ありえない事はない」ということが証明されたような今回の大地震でしたが、アンケート結果を整理している私達も、他の人の考え方を聞くことで、例えば、今まで考えていた事のまちがいや安易さ等に気付いたり、今まで以上に真剣に考えたり、とても勉強になりました。

今回のアンケートに対しては、あえて回答を出しません。皆さんで考え、自分は、又は地域ではどうするかを考える参考にして下さい。

なお、男女別、年代別に無差別に実施したアンケートの回答の中から、代表的なものを掲載いたしました。

「世の中にありえない事はない！」



避難所風景 (荒木委員撮影)

(20代男性)
▽大田区では、防災に関して様々な対策を考え実行しているようだが、その具体的かつ地域別の細かい情報を我々に積極的に提供してほしい。

(10代男性)
▽日常生活を送る中で、常に地震について考える事は不可能に等しいから、大切なのは、起きた時にどれだけ落ち着いて対処できるかどうかだと思ふ。

(30代女性)
▽水・食糧、トイレ等の物資は早急に手配し、交通の確保が重要。

(40代女性)
▽現実的に現金が必要というのが目に見えました。現金がないと何も出来ない。

(40代男性)
▽救助訓練に車椅子を使ってほしい。一般の人が車椅子の使用方法を知る必要がある。

(50代男性)
▽地震発生時に区役所から流される放送は、反響して聞き取りにくい。何かよい情報伝達の方法はないものでしょうか。

(60代女性)
▽「のどもと過ぎてても熱さ忘れるな」いつも最悪の状態を考えて、折りにふれ非常時の行動を繰り返す行方。

(80代女性)
▽百聞は一見にしかず。年に一度の防災訓練には是非多数参加して、非常時に備えましょう。